

事業所における自己評価総括表

○事業所名	鎌倉・森の家		
○保護者評価実施期間	2025年12月4日		～ 2025年12月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年2月16日		～ 2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◆自然環境 活動場所は室内に留まらず、庭、自然の山等があり、活動の質・幅ともに確保しやすい。	自然体験、身体を動かした活動、季節に応じた活動等をベースに豊かな経験となるよう、活動プログラムを検討している。	平日のみの開所であったが、放課後の時間帯では活動の幅に制限がある。より長い時間を背景にした活動を実施するため、土曜開所を検討する。
2	◆インクルーシブな環境 同一法人が同一建物内で『学童保育』を併設しており、インクルーシブな環境である。	インクルーシブな環境だけでは支援とは言えず、関わり方によっては子どもの最善の利益にはなり得ない。運営や声掛け等、全般で細やかな配慮が必要。	放課後等デイサービスと学童保育、各々を利用する子どもが一体感をもって取り組めるよう、活動を工夫する。
3	◆スタッフによる支援 保育士をはじめとしたスタッフは、子どもが安心して楽しく過ごせるよう、個に向き合い、気持ちを汲み取り、丁寧に対応している。	理念・方針・コンセプト等を通し、子どもが安心して過ごすこと、個に向き合い気持ちを汲み取り丁寧に対応することの重要性を説明している。	開所1年目となる2025年度は、採用したスタッフの質に依存していたが、風土・文化として定着する必要がある。研修や社員間の風通しの良いコミュニケーション等を通じ意識を醸成する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◆支援に関すること ・活動プログラムの蓄積 ・エビデンスに基づいた療育	・開所後1年不足のため、事業所としての活動プログラム実績が少ない。 ・専門的知見を吸収する機会が乏しい。	・継続して活動プログラムを検討・実施し、事業所の財産として蓄積。 ・外部研修の受講等
2	◆広報・広聴 ・情報発信、家庭との相互コミュニケーション	・保護者と職員が交流する機会が少ない。 ・公式HP、SNS等を利用者家庭に閲覧いただく案内が弱い。	・保護者と職員が交流する機会を、より積極的に設ける。 ・HP、SNS等での情報発信について、より積極的に案内する。